

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

今 井 智 子

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 紀 子

倉 内 雅 子

倉 知 睦 子

佐 藤 将 江

城 間 恵 子

鈴 木 啓 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

本年も、最終号をお届けする季節が巡ってきました。この1年、様々な学会に参加させていただき、最新の研究動向を知るとともに大いに触発されました。中でも、本年9月17～19日に国際医療福祉大学成田キャンパスで開催された10th Biennial Asia Pacific Conference on Speech, Language and Hearing: APCSLH(第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会)は非常に有意義で印象深い学会でした。この学会は環太平洋諸国およびアジア諸国の言語聴覚士が構成する学会で、言語聴覚障害学の研究の発展を図り、知識の交流を進めることを目的としています。今回は、日本が開催国となり、大会長は国際医療福祉大学の城間将江教授、会長は聖隷クリストファー大学の柴本勇教授が務めました。本大会はわが国で初めて開催された言語聴覚障害学分野の国際学会となります。当日は、17国から約500人の参加者があり、最先端の研究を行っている各国の研究者による講演、セミナー、シンポジウムが開催されると同時に、口演81演題、ポスター174演題が発表されました。わが国からは、若手研究者を中心として多数の研究成果が発表され、参加者の関心を集めていました。

わが国の言語聴覚障害研究は、国際的に見てかなり高水準にあると思いますが、その研究成果が海外に発信される量が多いとは言えません。グローバル化が進む現代にあって、研究の発展とその成果の社会への還元は国際規模で考えるべきであり、本分野でも研究の国際協力と国際交流が非常に重要となってきています。本誌は、現在のところ日本語版のみ発行していますが、近い将来、英語版を発行するようになることを望みます。また本誌は英文原稿の投稿を受け付けていますので、奮ってご投稿ください。

今号には、第8回言語聴覚研究優秀論文賞の発表と、受賞者の高倉祐樹氏による随想が掲載されています。また、総説として橋本圭司先生に「発達障害児者へのポジティブな行動支援」(第18回言語聴覚学会講演)を寄稿していただきました。このほか、原著論文が4編、調査報告1編が掲載されており、いずれも臨床に根差した興味深い論文です。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第14巻 第4号)2017年12月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2017, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)